

府中市議会議長
手塚 としひさ 様

令和7年1月10日

公明府中 幹事長 福田 千夏

公明府中行政視察について(報告)

このことについて、次のとおり実施いたしましたので報告します。

1 期間: 令和6年12月18日(水)～20日(金)

2 視察地及び目的:

- ① 福岡県篠栗町 トイレトレーラーの概要
～九州では初めて、全国の自治体で6番目の配備～
- ② 長崎県雲仙市 「チョイソコうんぜん」の取組について
～オンデマンド型乗り合い送迎サービス事業～
- ③ 長崎県長崎市 長崎スタジアムシティについて

3 視察者:		住所	連絡先
福田 千夏	幹事長	府中市是政3-16-4	
西村 陸		府中市白糸台3-36-18	070-5554-0060
奈良崎 久和		府中市西原町3-24-19	
高津 みどり		府中市美好町2-27-10	090-5574-5680
坂本 けんいち		府中市栄町2-4-6-207	090-2587-6949

4 視察内容
(別紙参照)

①福岡県篠栗町
トイレトレーラーの概要

- 日時： 令和6年12月18日(水)13:30～15:00
- 場所： 篠栗町役場
- 出席者： 篠栗町総務課 田村課長 生野課長補佐 総務課 消防防災係 井上係長 吉川氏
篠栗町議会 荒牧議長／公明府中議員団5名

■町の概要：

篠栗町は総人口31,240人。面積は38.93平方キロメートル。博多駅からJR篠栗線快速で博多駅から15分の距離。鉾立山・八木山・若杉山の峰々に囲まれた緑豊かな町で、中央には多々良川が東西に流れ、その周囲に平地が開けている。
総面積の約7割に山林が広がり、ウォーキングコースやキャンプ場などのレクリエーション施設や、180年の歴史を持つ篠栗四国霊場に結びつきのある歴史的な遺産や施設などが数多く点在。

■視察内容：

九州では初めて、全国の自治体で6番目の配備。町長会で助けあいジャパントイレネットワークの石川淳哉代表の呼びかけに応じ、九州で最初に導入した。
(概要については添付資料の通り)

◎効果について

- ①助けあいジャパントイレネットワーク加入により自治体同士がLINEでつながり情報共有される
 - ②災害支援時に速やかに派遣できる
 - ③迅速な復旧につながる＋町内での災害トラブルにも対応できる
 - ④町の啓発につながる
- ラッピングにより町のPRが派遣先や道中でも反響あり

◎課題について

- ①ネットワーク加入自治体が22とまだ少なく、能登半島地震の際は82ヶ所の要請があり足りなかった。
 - ②被災地現場での給水や清掃の手配をどうするのか
- 能登半島地震の際は石川県庁でできたからよかったが

◎今後の展望

ネットワーク加入(車両購入)自治体の増加

■質疑などから

- ・トイレは4室で1200~1500回分の容量
- ・トイレトレーラーの場合、牽引車は帰ってくるが、トイレカーの場合は車両ごと置いてくる
- ・「みんな元気になるトイレ」のロゴ表記はネットワーク加入の車両に表記できる
- ・清水タンクの水は水洗式トイレと手洗い用
- ・車両購入とトイレネットワーク加入はセットで考え、CFもそのようにアプローチし寄付を募った
- ・トイレトレーラーは牽引車が必要で、既存の車両でもOK。接続部分のヒッチメンバーと呼ばれるキットを両車両に設置する作業・費用はかかる。牽引車運転には特殊免許が必要になり、取得費用とともに、被災地へ向かう際に技術が求められる。
- ・トイレカーよりもトレーラーの方がタンク容量は大きい
- ・派遣期間は被災地の状況によるが、現地の状況を優先しつつ、水害の季節や車検のタイミング等派遣自治体側の都合も出てくるため、派遣先との調整は必要となる。→能登半島への派遣は6ヶ月
- ・派遣先に引渡して以降は基本的に現地で給水・汲み取り・清掃は現地で行う
- ・きれいにして返してもらう
- ・イベントなど日常での活動は、主に年1回程度の大きなイベントやトイレネットワークからの要請で他自治体に派遣する場合も。使用する時と展示・紹介するパターンあり
- ・町内イベント等で使用する場合、イベント主催の担当課が清掃費用負担（基本的清掃）。返却後、総務課職員がしっかりと自前で本格清掃
- ・CFは800万円で総費用の約半分という設定。周辺他自治体も同様の金額設定は偶然か
- ・CFにあたり、町内事業者などに営業してアピール。目標額を1ヶ月でほぼ達成した
- ・基本的にはバキューム排水方式で処理。大災害などでは直接下水への落下方式で対応可能
- ・牽引車の特殊免許は職員4~5人が取得。能登へは1週間を要した。遠隔地の場合は専門業者にドライバーを依頼し、職員は最小限にした方がよい
- ・派遣先で破損などした場合は、ネットワーク側で定期的に点検を行っており、情報をもらえる
- ・破損も程度により、保険などはまだなく、経験値がまだそこまでではない
- ・耐用年数は不明
- ・いち早く導入に踏み切れたのは町長の判断
- ・能登地震では、1/2にはトイレネットワークから情報が入り、派遣への準備を進め、1/9には被災地に。情報は来るが、派遣の有無の判断は自治体で決定する。
(調整元のトイレネットワークが締切日を設定)
- ・激甚災害指定される場合は国からの補助がある

■まとめ:

現実に即した被災地支援を行うためにはトイレネットワークへの加入が必須であり、それが加入自治体の負担を減らすことにも繋がる。

また、共有される情報は常に最新のものであり、その他の支援を行う場合にも貴重な情報源となる。

メンテナンスについては、災害派遣など長期で行なった場合は使えば使った分だけ汚れるものである。日常使いについては、清掃など有事に備えておく必要もあり、年1回など利用のルールを決めておくことや、PRなどへの出動は積極的に行い、市民へのアピールをすると良い。

PRの面から、ラッピングの重要性を理解した。府中市として何をアピールするのかよく考え、計画的なデザインを施すべし。



▲篠栗町（ささぐりまち）の町並み



▲篠栗町役場外観



▲トイレネットワークの合言葉
クラファンへの寄付者・企業名が表記



▲トイレトレーラー外観（前から）



▲トイレ下収納スペースには操作パネルも



▲トレーラー内個室は4室。意外に広い

福岡県篠栗町 トイレトレーラーの概要

令和6年12月18日（水）13:30～15:00
篠栗町役場

府中市議会公明府中 会派視察 1日目



報告者：西村 陸

②長崎県雲仙市

「チョイソこうんぜん」の取組について ～オンデマンド型乗り合い送迎サービス事業～

- 日時： 令和6年12月19日(木)10:00～11:30
- 場所： 雲仙市役所3F委員会室
- 出席者： 総務部 田中参事監 政策企画課 町田課長、松島課長補佐、町田参事補
議会事務局 富永参事補
市議会 総務常任委員会 平野利和 委員長／公明府中議員団5名

■市の概要：

平成17年10月11日に7町が対等合併し雲仙市に。島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置し、北岸は有明海、西岸は橘湾に面する。雲仙山系の険しい山地と、それに連なる丘陵地、及び海岸沿いに広がる平野部からなり、総面積は214.31平方キロメートル(全県の5.2%)。日本最初の国立公園である雲仙天草国立公園、島原半島国立公園を擁する。

人口は40,756人。70～74歳が最も多い。その生活圏は、市内および島原半島の他市町のほか、長崎市、諫早市、大村市などが主要地。公共交通機関は、県営バス、島鉄バスによる路線バス、諫早～島原外港間を走る島原鉄道があり、通勤や通学など市民生活に欠くことのできない重要な交通手段。

総生産額は900億5,900万円(全県の2.5%)。産業別比率では、第3次産業(74.6%)、第2次産業(13.2%)、第1次産業(11.3%)で、産業分類別比率では「サービス業」(25.3%)、「不動産業」(14.4%)、などが上位。総生産額では、農業の割合(10.3%)が県平均(1.6%)を大きく上回っているのが特徴で、県内有数の農業地帯である。

■視察内容：

雲仙市が抱える課題として、自家用車の普及に加え、少子化による学生における公共交通利用の減少などを踏まえ、路線バスの減少・撤退による市民の足の確保が急務であったことから、さらなる少子高齢化を見据えつつ、市の実情を踏まえた総合的かつ持続的な地域交通の確立2020年から、予約型の乗り合い送迎サービス「チョイソこうんぜん」の実証運行をスタート。資金にはスポンサー収入などを充て、事業の純収益をコロナ禍以降減収が続くタクシー会社の業績として回すという当時全国初の試みであった。長崎トヨペット株式会社提供の専用システムを活用した住民が希望する行き先に合わせて運行する乗り合い送迎事業であり、雲仙市、長崎トヨペット株式会社、地元タクシー事業者、市社会福祉協議会、自治会などでつくる運営協議会が実施主体である。令和4年度からは本格運行として市全域を4つのエリアに分け、長崎トヨペットからの乗客定員8人のワゴン車を1台ずつ配備し、平日土曜午前9時00分から午後5時まで運行している。

対象は運行エリア周辺に住む住民で、事前に無料の会員登録をした上で、利用する当日30分前までに電話により受付センターに行き先や希望到着時間などを伝え、センターは他の利用者の目的地と合わせて最適なルートがAIによって計算され、車が迎えに行く停留所や時間帯を指定する。利用料は1回200円。隣のエリアをまたぐルートは400円という金額設定。

停留所は、同協議会で定めた、各地域のごみステーションや公民館など720カ所に設置。実証事業で地元の病院や商店などからスポンサーを募集し、スポンサーが独自に停留所を設置できるしくみも設けた。

また同協議会では、コロナ禍で減収が続く状況を踏まえ、車両の運転などで事業に携わるタクシー業者4社に対し、運行経費に加えて運賃収入などの事業の純収益を支払う。登録者数は令和6年度11月まで毎月少しずつ増加して3000名を超えた。一方で利用経験者数も比例して微増が続いているが、登録者数の4割程度にとどまっており、登録者の8割以上が60歳以上の高齢者という現状。事業収支は、運賃収入とスポンサー収入で1209万円に対し、主に運行経費が占める支出総額は4438万円となっており、約73%である3229万円が市負担。今後の課題として、さらなる利便性向上の一方で安定した事業継続のために運賃改定やスポンサーの獲得、利用促進対策が求められている。

■質疑などから

- ・チョイソコは協定を結んでいる長崎トヨペットのグループ会社であるアイシンが開発したシステムであり、当システム及び車両のリース・メンテナンスなどがパッケージされたスキームであり、これを活用している自治体が九州では多い。
- ・ドライバーは市内9社あるタクシー事業者からローテーションで人を出してもらっているが、チョイソコはバスとタクシーの中間的な位置付けであり、タクシー事業との棲み分けできている。
- ・乗り継ぎは3回までできるが、そもそも自分の生活圏内で利用するものなので、端から端まで行くようなニーズはほとんど存在せず、現実的には2回くらい。
- ・登録対象者は限定せず、誰でも登録可能。その上で8割が高齢者となっている。
- ・残りの2割のうち、未成年は3～4%程度。
- ・完全予約制なので、往復の場合、必要に応じてあらかじめ予約しておくのが通例。タクシーほどオンデマンドでもないが、バスのような時刻表もない。往復の場合、復路はタクシーとの併用もなくはない。
- ・予約システムは、最初に予約した人を優先し、同じ時間、ルートであれば乗り合いにしていける。乗り合い率をどう高めるかが課題。一方で、予約が入っていたり混み合う時間帯は予約できないといったクレームも。
- ・利用者は高齢者が多いことから、予約した時間を忘れていたり体調が悪くなることも頻繁にある。ドライバーがセンターと連携して臨機応変に対応もするが、こうしたトラブルが多いのは仕方ない。
- ・720ヶ所もの停留所には、番号と名称を記したA4サイズのシート(ステッカー)を添付。個別回収ではなく地域の要所要所にゴミステーションがあるため、みんなが必ず行く場所として停留所を設定。その他、公共施設、公民館など自治会と協議して設定した場所のほか、駅やバス停、さらにスポンサーの事業所にも拡大。現在53社からスポンサー収入を得ている。(ダイヤモンドからブロンズまで金額ごとに5つのグレード)
- ・乗り合い率の向上や引きこもりの解消、フレイル予防の推進に繋げる、スーパーなどがスポンサーになってくれれば停留所ができ、相乗効果をさらに高めたい。
- ・福祉タクシーとも住み分けはできている。
- ・利用料は200円。タクシー券を利用する高齢者が多く、100円で乗れる。
- ・利用者は単身高齢者や高齢者のみ世帯だけというわけでもなく、家族がいても負担をかけたくなかったり時間帯が合わないなどの理由から利用する人も。
- ・当初、学生の通学のことも目的にあったが、実際は通学時間と合わず、塾や部活等の特別な時の利用に留まる。
- ・市負担率は高いが、収支のみで事業を考えているわけではなく、まずは利用促進や安定的事業となるようにしていきたい。

■まとめ:

九州という地域の実情に合わせて考えられた官民連携のパッケージされた事業を雲仙市に合わせてカスタマイズして上手に活用している様子がわかる。タクシーとバスの中間的な存在として、運用していくのが大変難しいところだが、自動車メーカーの強みや地元事業者の協力が得られており、市民協働的な取組と強く感じた。額は少ないものの、50社を超えるスポンサーを獲得したことはとても評価でき、軌道に乗れば様々な相乗効果も見込めるものと考えられる。

ノウハウを持った民間事業者をはじめ、市内事業者や福祉事業者等と連携しながらチームとして取り組んでいくことが必要。

本市においても、核となるパートナー探しはもちろんのこと、民間バス路線やちゅうバス路線のはざまにある不便地域を選定しての試行的な運行など積極的に取り組んでいただきたい。



▲雲仙市総務部政策企画課から説明を受ける



▲事業の提案者でもある雲仙市議会総務常任委員会 平野委員長視察に最後まで同席

長崎県雲仙市 「チョイソコうんぜん」の 取組について

令和6年12月19日（木）10:00～11:30
雲仙市役所

府中市議会公明府中 会派視察 2日目



停留所に掲示するステッカー（上）▲
チョイソコ指定停留所のひとつである雲仙市役所出入口（下）
さりげなく待合のベンチも併設されている。



平野委員長と議場で▲

報告者：西村 陸

③長崎県長崎市

長崎スタジアムシティについて

- 日時： 令和6年12月20日(金)10:00～11:30
- 場所： 長崎スタジアムシティ
- 出席者： 株式会社リージョナルクリエイション長崎直営事業部アクティビティ運営課 課長代理 山代 康浩氏
公明府中議員団5名

■市の概要：

長崎市は、江戸時代、海外に開かれた唯一の貿易・文化の窓口として、近代以降は海運国日本を支える造船業を主として栄え、国際社会の中で重要な役割を担ってきた。
昭和20年8月9日には原子爆弾による惨禍を経験し、戦後は核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える国際平和文化都市としての役割を果たしている。
人口397,530人(令和5年2月1日)、面積405.9 km²。
市の西、南、東側は海に面し、五島灘、橘湾、大村湾が広がる。長崎港内の平坦な中心部の地区には、商業・業務機能が集積し、長崎港を中心としたすり鉢状の地形に形成された斜面市街地を含め、独特の都市景観が形成されている一方、周辺は海と山の豊かな自然に囲まれた地方都市である。
2022年度には西九州新幹線の開通と新たな駅が開業。2024年度には長崎スタジアムシティが完成するなど大きく変貌を遂げ、若者が新しい事業や活動を立ち上げる動きも生まれている。

■視察内容：

長崎スタジアムシティは、ジャパネットホールディングスが主導する認定民間都市再生事業計画「長崎スタジアムシティプロジェクト」により整備された、スタジアム・アリーナ・商業施設等を中心とした都市再開発地区。
三菱重工業が所有する長崎造船所幸町工場の閉鎖にあたり、「Smart & Sustainableなまちづくりを先導する拠点」をコンセプトに、当該土地の活用事業者及び事業計画の公募を行い、2018年にジャパネットホールディングスグループが三菱重工業との優先交渉権を獲得。
同年11月に工場敷地68,746.58平方メートルをジャパネットホールディングスが取得する不動産売買契約が締結され、2019年6月にジャパネットが事業の企画運営を担う子会社として、株式会社リージョナルクリエイション長崎を設立。ジャパネットホールディングスが事業主、リージョナルクリエイション長崎が企画運営、JLLグループがプロジェクトマネジメント、環境デザイン研究所と安井建築設計事務所が基本設計、三菱地所設計がコンストラクション・マネジメントを担当。2022年6月26日に起工し、2024年10月14日にグランドオープンを迎えた。敷地面積は7.5ha。開業日にちなんだ1014人によるテーブルカットや、長崎市出身の福山雅治氏がプロジェクトのPR責任者「クリエイティブプロデューサー」に就任するなど話題満載のオープンとなった。
総事業費はおよそ1000億円に膨らんだが、行政による負担のない純民間事業として実施され、ジャパネットが借入れも含め事業費の全額を拠出。

サッカーやバスケットボールなどのプロスポーツを年間通じて楽しめるだけでなく、コンサートなど各種イベントも開催できるサッカースタジアムとアリーナを主体として、ホテルやオフィス、店舗などを併設する複合施設。
敷地面積は東京ドーム1.5個分。九州新幹線が開通したJR長崎駅から徒歩約10分の好立地にある。
スタジアムのネーミングライツを取得したソフトバンクはジャパネットと連携し、人やモノ・情報をICTでconnectすることで新たな価値を生み出す次世代スタジアムシティの構築をめざしている。

メインスタジアム「PEACE STADIUM Connected by SoftBank」は、J2・Vファーレン長崎のホームアリーナ。ピッチと観客席の距離が国内最短路約5メートルと近く、選手のベンチとも一体化した作りになっているのが大きな特徴。またスタジアムへの出入りは自由にできる構造となっており、試合がない日でも観客席やピッチを解放し、誰もが気軽に立ち寄れて楽しむことができる市民の憩いの場にもなっている。
バスケットボールB1リーグのヴェルガ長崎のホームアリーナであり、コンサートやイベントなども開催できる「HAPPINESS ARENA」は、「たくさんのハピネスを生み出す場所」というコンセプトのもと、センターハングビジョンやリボンビジョン、高品質の音響システム・照明設備を備え、スポーツの迫力や音楽の魅力を最大限に引き出す、最新の設備が導入されている。約6,000人収容。屋上にはフットサルフィールドや3人制バスケットボールコートがあり、誰でも利用できるオープンスペースとなっている。

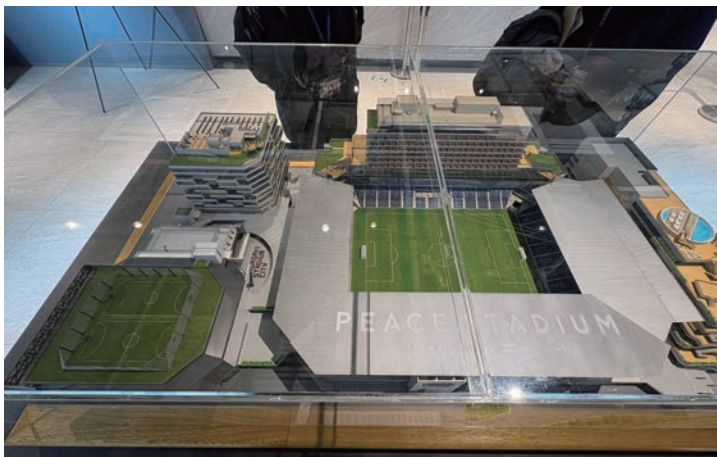
■質疑などから

資料をもとにした説明の後、敷地内各施設を現地視察し、都度質問などを行った。

■まとめ：

今回、長崎市に対して視察の申し入れをしたが、実際話を聞いて純民間事業として実施されたことが判明し、行政の関わりは防災面や交通に関するごく一部に限られている。民間事業かつ膨大な事業費という点では府中市反映できるものではないが、スポーツ施設建設に対する姿勢やアイデアなど学ぶべき点は多くあった。

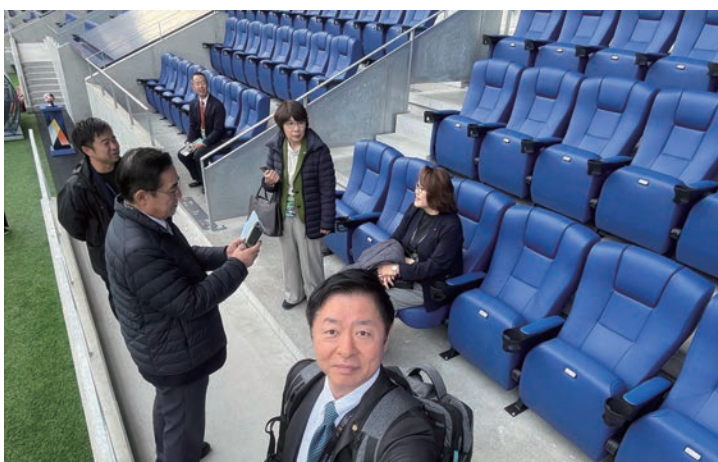
スタジアムシティ全体の敷地面積は7.5ha。府中基地跡地留保地の利用予定部分の7.2haと近い(ただし整形地)。サッカースタジアムは3.5haで20000席、アリーナは2.74haで6000席という規模。音楽コンサートや展示・物産展等での使用も可能な多機能・可変型の施設であり、メインアリーナとサブアリーナで構成。屋上にはバスケットコートやフットサル場を併設している。今や防災機能やバリアフリー仕様はスタンダード仕様であり、その上で「見せるスポーツ」に重きを置きつつ、多目的に活用できる可変型のつくりになっている。その上で、「選手が近い」、「プロ的目線の体験」など観客や利用者の満足度を追求した設計やソフト面での工夫など、愛される施設づくりに力が注がれている点が非常に好感が持てた。市民に愛される施設にするのか、市内外多くの来場者を迎える施設にするのか、その目的を明確にすることこそが、より良い施設(エリア)につながる第一歩であることを感じられる好事例であった。



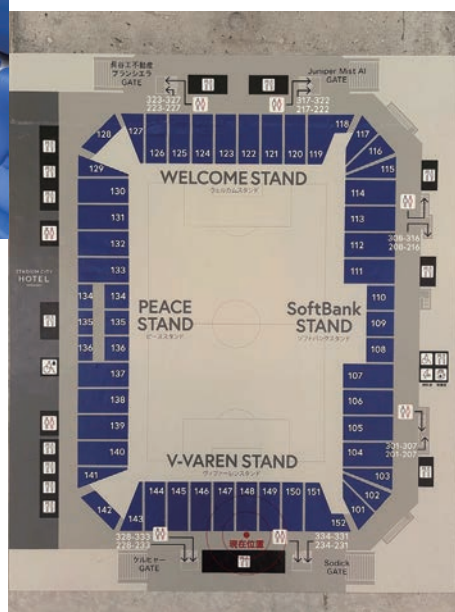
▲長崎スタジアムシティ全体の模型



▲Vファーレン長崎のホームスタジアム内



▲選手のベンチと観客席の一体化。ピッチが近く臨場感や一体感を演出



◀ゲートひとつひとつがネーミングライツの対象に
スタンド名も方角ではなく具体名に

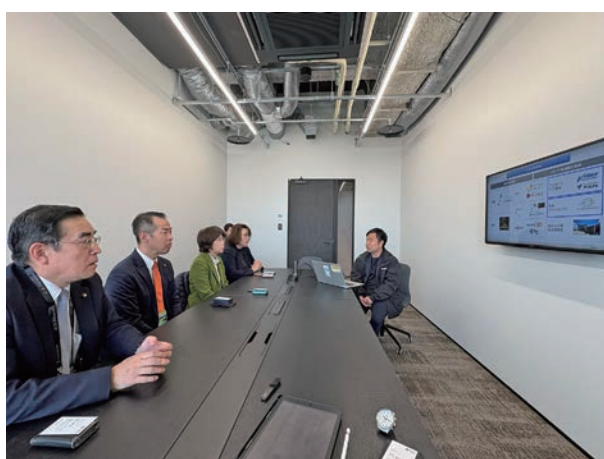
長崎県長崎市 長崎スタジアムシティの 概要について

令和6年12月20日（金）10:00～11:30
長崎スタジアムシティ

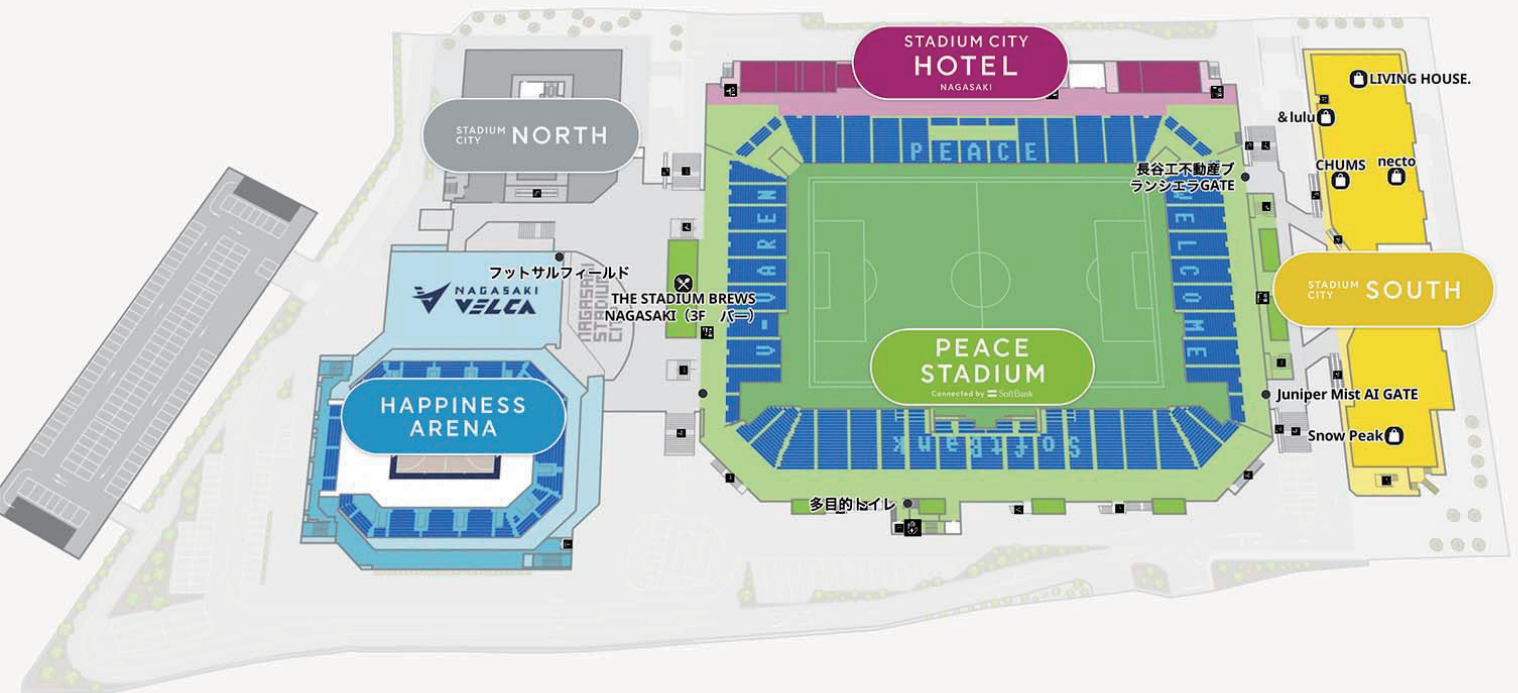
府中市議会公明府中 会派視察 3日目



◀平ホテルや飲食店からも試合を眺められる構造



報告者：西村 陸



▲長崎スタジアムシティ平面図



▼アリーナ会場内（HP から転用）

アリーナ外観 ▶

